



きままに川柳

From Readers

お便り日和

お題「目覚め」

テーマ「私が鬼になる時」

鬼いちゃん

甘納豆さん

おにはそと

ゆず（泉町）

笑うと負けよ

今年の恵方は南南東

今は仏のように落ち着いているが、かつての私は、弟にとつてひどい兄だった。おやつはいつも大きい方を取られ、危ない場所であそぶ時はまず下見に行かされる。書けない所業も山ほど。「鬼いちゃん」とでも言うべき存在だった。だが不思議と、兄弟仲は悪くない。全く出来た弟だと思ふ。少し抜けていて、心配させられる時もあるけれど。次に私が鬼になる時は、彼がピョンチになった時のはず。今度は味方の「鬼いちゃん」として。

そう簡単に鬼にならないよう心掛けている私だが、時々子鬼くらいにはなる。実の親にだけは沸点が低いのか、嫌われないだろうという安心があるのか、つい言い過ぎてしまうのだ。親だって一人の鬼、いや人間。完璧ではないということを知っては分かってはいるけれど、気持ちがまだ追いついておらず、理想を押し付けてしまう。自分の中の小さな鬼を追い出して、寛大になれますように。そんな願いを込めて、今年も家族で豆まきをしようと思う。

鬼は恐ろしい。見たことはないが、そういうことになっていく。「心を鬼にする」という言葉は、親が子の将来を思い、厳しく接するときに使う。事実、私も子どもを持ち、度々心を鬼にしなくてはならないシーンに出会う。子どもの目を見て、真剣な表情で注意する。ところが彼女に私の（鬼）は通用しない。見透かしたかのようにニコッと笑う。いわく「お母さんは怖いけど、パパはすぐに笑うから」…だって。にらめっこじゃないんだけどなあ。

まどろんで夢いま一度冬深し
マニヘストの夢から目覚めパーとなり
目覚めても夢の続きを追う私
目覚め良しノルマこなして軽い靴
昨日の今日目覚めれば皆新年の顔
冷水を浴びて心の目が覚める
体操は心と体目覚めさせ
せせらぎに我身映せしときを知る

ストレッツチマン
木偶
こねこ
小阪千枝子
一慧
光ちゃん
ラン
足立昌代

3月1日号の投稿募集

お便りテーマは「卒業」です。春は別れの季節でもあります。卒業式の思い出や卒業したい〇〇など、200字以内（タイトル別）でお寄せください。

川柳のお題は「野」（字結び）です。（1人一句）

締め切りは2月18日（月）です。

■応募・問い合わせ

住所・氏名またはペンネームを明記し、秘書広報課広報広聴係へ。

〒509-5192（住所不要）

☎54 1111（内線185）／FAX 55 7763

✉koho@city.toki.lg.jp

※応募多数の場合は、採用されない場合があります。また、お便りについては、採用に当たり、趣旨を変えない程度で表現を変更する場合がありますので、ご了承ください。掲載の際に投稿者へのご連絡は行っていません。

編集後記

今回の特集では、学校での歯磨きを取り上げました。各校でさまざまな取り組みをしており、市内の小学校で虫歯のある児童の割合は、ここ10年ほどで大幅に少なくなっていました。

自分の頃を思うと、土曜夜の人気番組のエンディングで「歯磨いたか」と言われたことを思い出す程度。あの頃から気を付けていれば…。

歯磨きの大切さを学んだ彼らには、80歳で20本の歯が残る「8020」を目指してほしいと思います。（広報）